

侍J、王座奪還

WBC決勝
米に競り勝ち14年ぶり

【マイアミ（米フロリダ州）共同】野球の国・地域別対抗戦、第5回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）日本代表は21日、米フロリダ州マイアミで行われた決勝で前回王者の米国を3―2で下し、2009年の第2回大会以来、14年ぶり3度目の優勝を果たした。7投手をつなぐ総力戦で臨み、最後はダルビッシュ有（パドレス）、大谷翔平（エンゼルス）の継投で逃げ切った。

打線は0―1の二回に村上宗隆（ヤクルト）の自身大会初の本塁打で追い付き、さらに1死満塁からラース・ヌートバー（カージナルス）の内野ゴロで勝ち越した。四回には岡本和真（巨人）の2号ソロでリードを広げた。先発登板した今永昇太（DeNA）は2回1失点で降板し、その後は小刻みな継投に入った。八回にダルビッシュが本塁打を浴びたものの、九回は大谷が2死からチームメートのマイク・トラウトを空振り三振に打ち取り、スター選手がそろった米打線の反撃をしのいだ。



第5回WBCで優勝しガッツポーズする日本の大谷翔平＝21日、マイアミ（共同）

栗山英樹監督が率いる「侍ジャパン」は投打の「二刀流」大谷やダルビッシュ、吉田正尚（レッズ）、ドソックスら大リーガーに加え、史上最年少で三冠王になった23歳の村上や完全試合を達成した21歳の佐々木朗希（ロッテ）ら国内の有望な若手も集まった。東京での1次リーグから7戦全勝で3大会ぶりにタイトルを奪還した。